

講演資料

東京都立あきる野学園養護学校教諭 原 智彦 氏

講演 『支援費制度』における保護者・学校の役割について

東京都立あきる野学園養護学校

原 智彦

1. 本校児童・生徒のライフステージ
 - 進路指導から見えてくるもの
 - ・本校児童・生徒のライフステージ(資料1)
 - ・生活地図アンケート

 - 本校の進路状況(資料2)

2. 『支援費制度』への取り組み
 - 地区別懇談会の開催
 - ・地区別懇談会の開催と市町村福祉課の協力(資料3)
 - ・支援費制度についての相談シート(資料4)

 - 進路実習懇談会(資料5)

 - 学校開放事業とPTA地域活動(資料6)

3. 「個別移行支援計画」の作成と活用(資料7)
 - 個別移行支援計画とは?

 - 「学校から社会へ」「子どもから大人へ」の2つの移行を支える

 - 生活支援の大切さと在学中からの社会参加
 - ・授業づくり、生活づくり

 - 個別の支援計画・移行支援計画と支援費制度
 - ・市町村福祉課と学校との連携

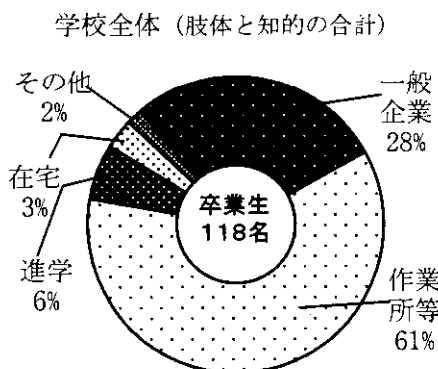
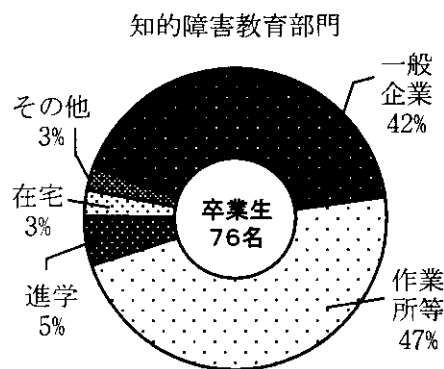
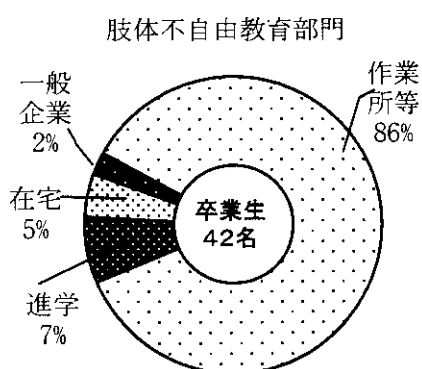
資料1:本校児童生徒のライフステージ



資料2 高等部卒業生の進路状況

卒業年度	進路先		一般企業	作業所等	進学	在宅	その他	卒業生総数
	部門							
平成9年度	肢体不自由教育部門		0名	4名	0名	0名	0名	4名
	知的障害教育部門		0名	3名	0名	0名	0名	3名
平成10年度	肢体不自由教育部門		0名	6名	0名	0名	0名	6名
	知的障害教育部門		1名	4名	0名	0名	0名	5名
平成11年度	肢体不自由教育部門		0名	5名	2名	0名	0名	7名
	知的障害教育部門		10名	6名	1名	0名	0名	17名
平成12年度	肢体不自由教育部門		0名	7名	1名	0名	0名	8名
	知的障害教育部門		4名	7名	0名	0名	1名	12名
平成13年度	肢体不自由教育部門		0名	11名	0名	2名	0名	13名
	知的障害教育部門		7名	9名	2名	0名	1名	19名
平成14年度	肢体不自由教育部門		1名	3名	0名	0名	0名	4名
	知的障害教育部門		10名	7名	1名	2名	0名	20名
平成9年度～14年度 累計	肢体不自由教育部門		1名	36名	3名	2名	0名	42名
	知的障害教育部門		32名	36名	4名	2名	2名	76名
総合計			33名	72名	7名	4名	2名	118名

【平成9年度(第1回卒業生)から平成14年度(昨年度)までの卒業生進路分布】



○進学に含まれるもの…4年制大学・短期大学・障害者職能訓練センター・障害者職業能力開発校

○その他に含まれるもの…家事手伝い等

開校からの高等部延べ卒業生数
全118名

資料3 地区別懇談会の開催(平成14年度)

○開催までの進め方

- ① PTAと進路指導部の支援費制度についての合同学習会（H14.6.21と7.9）
- ② 進路指導部による開催の依頼と日程調整
 - ア. 市町村福祉課との面談
 - イ. 日程調整(時期及び会場等)
 - ウ. PTAへの協力要請と近隣の学校・学級への連絡
- ③ PTAによる開催通知と近隣のPTAへの連絡
- ④ 開催当日
 - ・進行は、進路指導部。受付及び記録等は、PTA進路委員会。
- ⑤ 懇談会の記録は、PTAが「たより」にして保護者へ報告。
- ⑥ 進路指導部は、市町村別に、保護者の個別相談を支援。

○開催の概要

市町村	時期	参加人数	担当者	備考
A	H14.11.12(2回目)	本校：15名 他校：12名	障害者福祉係長	H14.7.16 (1回目)
B	H14.10.22	本校：23名(3) 他校：13名	生活福祉課長 障害福祉係長	
C	H14.9.27	本校：11名 他校：45名	障害福祉係長	
D	H14.12.10	本校：5名(1) 他校：11名	障害福祉課長補佐 ケースワーカー主任	
E	H14.9.19	本校：12名 他校：7名	障害福祉課長・係長 ケースワーカー・保健師	
F	H14.10.17	本校：11名(1) 他校：3名	福祉健康課長	
G	H14.10.31	本校：1名	保健福祉センター ケースワーカー	
H	H14.10.10	本校：4名(2)	ふれあい課 課長 係長・主事	

○平成15年度は、支援費制度利用に関するアンケート実施(H15年9月・H16年2月)。
進路指導部によるアンケート集約と「進路だより」の発行をし、個別に申請・契約等を支援した。

資料4

地域生活支援への要望(保護者用)

記入日：平成 年 月 日

児童・生徒名 (歳)	保護者名
所属 B 部門 小・中・高等部 年	住所
<p>■ 現在すでに支援を受けている内容</p> <p>・いつサービスを受けていますか。(例:毎週水曜日、2:00～5:00)</p> <p>・どんなサービスを受けていますか。(例:スクールバス停まで迎えに来てもらい散歩)</p> <p>・利用しているサービス機関はどこですか。</p>	
<p>■ これから利用したい支援について</p> <p>①緊急度の高い内容。 (例:登下校の付き添いをしている家族が怪我をしたので、送迎援助をしてほしい。</p> <p>②子どもの生活や、人間関係をもっと広げていきたい。</p> <p>③将来の生活の準備を始めたい。(自立生活の体験)</p> <p>④家族の介護軽減。</p> <p>・いつサービスを利用したいですか。</p> <p>・どんなサービスを利用したいですか。</p> <p>・利用したいサービス機関はどこですか。</p>	
<p>■ 考慮してほしい内容 (例:母親が腰痛のため通院している)</p>	

資料5 平成 15 年度 進路実習懇談会実施報告

今年度は、実習先・進路先及び就労・生活支援機関ごとに 3 回に分けて実施した。各回とも、保護者が20名～30名参加された。

第 1 回進路実習懇談会(福祉施設等) H15.11.18 実施

1	青梅市自立センター 身体障害者通所授産施設長
2	羽村市福祉センター 身体障害者デイサービスセンター 作業療法士
3	あきしま福祉作業所
4	NPO法人ふらっと 喫茶ふらっと 責任者
5	ひまわりの家 代表
6	知的障害者更生施設 金木星の郷 施設長
7	NPOあきる野福祉工房 事務局
8	東京都日の出福祉園 活動支援係
9	東京リハビリ協会 日の出リハビリ 実習担当
10	知的障害者入所更生施設 山の子の家 指導員

第 2 回進路実習懇談会(企業等) H15.12.2 実施

1	イオン(株)ジャスコ昭島店 後方統括マネージャー
2	(株)オレンジジャムコ 代表取締役社長
3	株式会社サイゼリヤ 顧問 東青梅店 アカウンタビリティ・マネージャー
4	富士通(株)あきる野テクノロジーセンター総務部 担当課長
5	青梅公共職業安定所 専門援助部門 職業指導官
6	東京障害者職業センター多摩支所 支所長
7	昭島市障害者就労援助事業 NPO 法人 チャレンジド ステーション クジラ

第 3 回進路実習懇談会(生活支援機関等) H16.1.20 実施

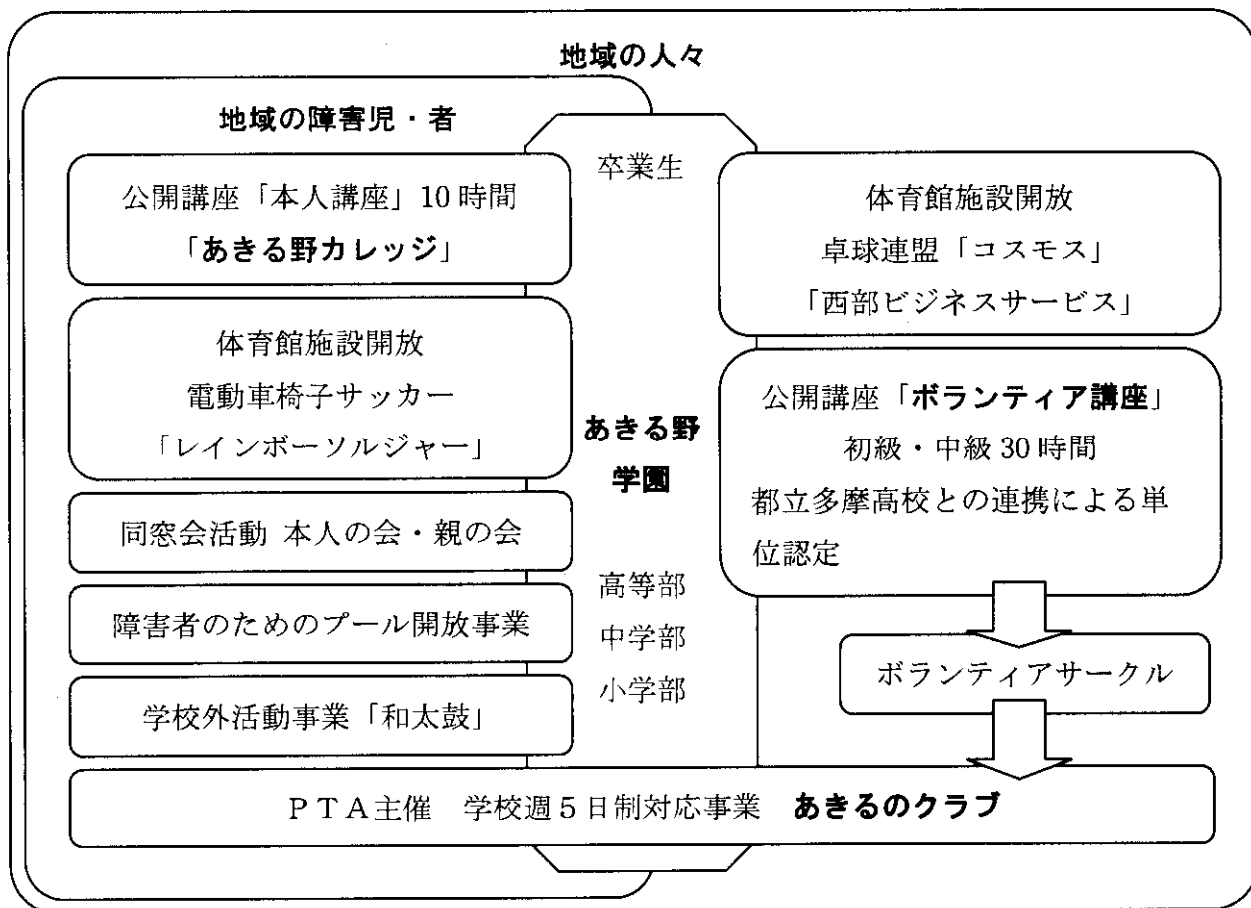
1	NPO 法人 秋川流域生活支援ネットワーク おむすびネット 理事長
2	あきる野市障害者地域自立支援センター
3	(株)葵ヘルパーセンター 西多摩事業所
4	グループホーム「とも」 寮長
5	自立生活センター・昭島
6	(社福)幹福祉会 昭島事業所
7	滝乃川学園 生活寮「草花の郷」
8	滝乃川学園 地域生活支援センター「色えんぴつ」 コーディネーター
9	東京都東村山福祉園 福祉サービス第2課
10	NPO 法人 あきる野福祉工房
11	NPO 法人 在宅福祉サービス ウィズ
12	羽村市障害者生活支援センター
13	NPO 法人・介助派遣事業 みんなの広場
14	東京小児療育病院 ケースワーカー・コーディネーター
15	(有)こころの広場 課長

資料6 『地域作り』の一環として(地域との連携)―「開かれた学校」学校開放事業の取り組み
～ボランティア講座・本人講座「あきる野カレッジ」・あきるのクラブ～

児童生徒のライフステージを考えた時に、在学中からの社会参加が卒業後の地域生活を豊かにするという視点から重要になってきている。そこで学校の役割として、保護者とともに**児童生徒の地域生活を豊かにする**取り組みが求められている。在校生から卒業生が対象の地域活動の**あきるのクラブ**、卒業生及び地域の障害者が対象の**あきる野カレッジ**、そしてこれらの活動を担うボランティアの養成として、**ボランティア講座**をPTAと協力して実施してきた。障害の特性を理解した支援方法を持つボランティアは、地域活動などを実現していくために不可欠であると考え、その養成に取り組んできた。その成果でボランティアサークルができ、現在、活躍していただいている。ボランティアの存在は地域活動である**あきるのクラブ**を立ち上げていくための一助になってきた。2年目を迎えた**あきるのクラブ**は居住地域で障害種別を越えて、活動を行い**学校から地域へ一歩**を踏み出した。また**あきる野カレッジ**では障害者のリカレント教育の場として、パソコンの活用や調理実習などを行い、学校卒業後の学びの場を提供している。さらにボーリング・カラオケといった余暇活動を仲間と共に楽しむことで、卒業後の生活の充実を図ってきた。

学校は地域社会における人的・物的資源のひとつとして、障害児・者が地域生活を充実していくための人材や場を提供し、保護者や地域に住む人々が活動のノウハウを作り上げていく際の支援をする役割が求められている。そしてこのような学校の取り組みが、障害児・者本人の持てる力を高め、地域の教育力や支援のネットワークを引き出す契機になることを期待している。

図5 《本校における学校開放事業の取り組み》



平成14年度 あきるのクラブ年間活動表

		Aコース	Bコース	Cコース	Dコース
1	6月15日(土)	国語教室	車いすダンス	和太鼓	リトミック
2	7月24日(土)	工芸教室	ハンドサッカー	インラインスケート	調理教室
3	8月7日(水)	調理教室	水遊び		パソコン教室
4	8月28日(水)	パソコン教室	ティーボール	よさこいソーラン	カラオケ
5	9月21日(土)	親子で遊ぼう!!(バーベキューなど)			
6	10月19日(土)	リトミック	ハイキング		工芸教室
7	11月16日(土)	国語教室	車いすダンス	インラインスケート	パソコン教室
8	12月21日(土)	みんなでMerry Christmas!			
9	1月18日(土)	工芸教室	ボーリング	よさこいソーラン	リトミック
10	2月15日(土)	調理教室	ハンドサッカー	和太鼓	工芸教室
11	3月15日(土)	みんなで遊ぼう!レクリエーション			

平成15年度 あきるのクラブ年間活動計画表

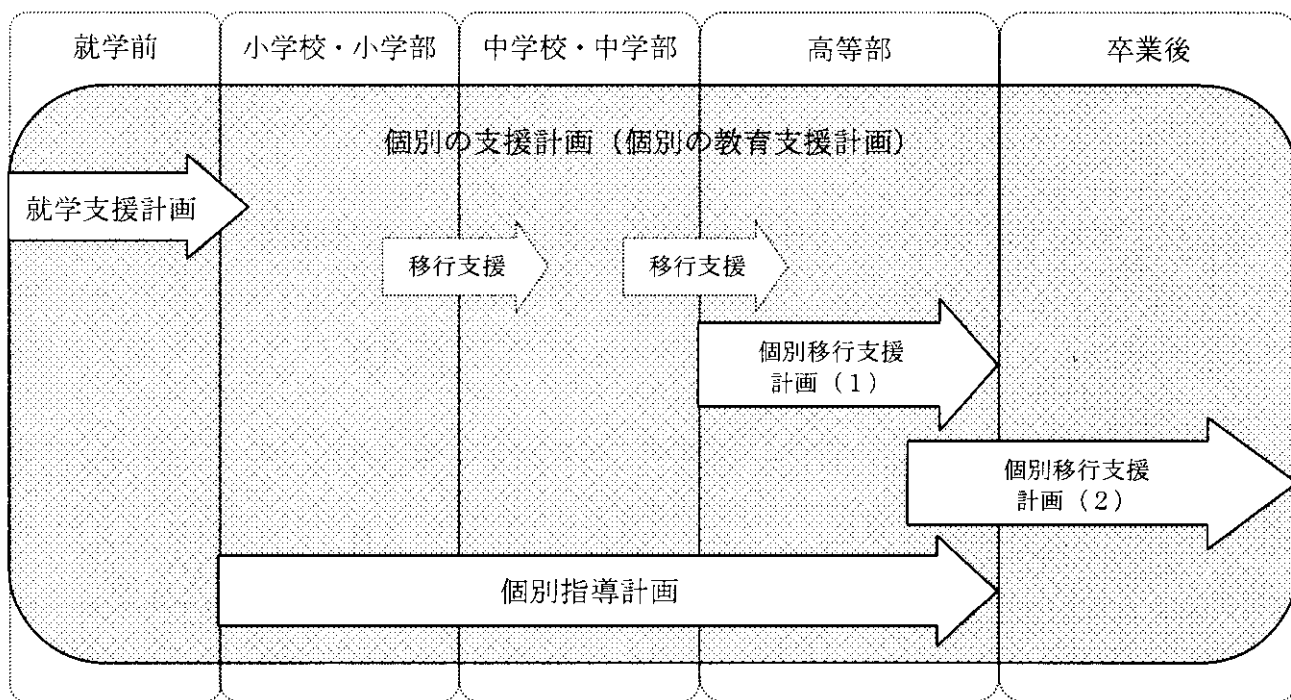
		Aコース	Bコース	Cコース	たゆたゆコース (医ケア・重心の方)	
1	6月21日(土)	車椅子ダンス	パソコン教室	映画鑑賞		
2	7月26日(土)	茶道教室	リトミック	よさこいソーラン		
3	8月9日(土)	和太鼓	水遊び	ことばあそび		
4	8月23日(土)	調理教室	パソコン教室	インラインスケート	○	
5	9月20日(土)	親子で遊ぼう!! (バーベキューなど)				
6	10月18日(土)	地域別プログラム				
7	11月15日(土)	車椅子ダンス	リトミック	和太鼓		
8	12月20日(土)	みんなで Merry Christmas!				
9	1月17日(土)	ことばあそび	茶道教室	インラインスケート		
10	2月21日(土)	調理教室	パソコン教室	よさこいソーラン	○	
11	3月20日(土)	ボーリング大会				

資料7-1 個別移行支援計画の作成と活用

～卒業後の生活の充実に向けて(関係機関との連携①)～

平成14年12月に「障害者基本計画」が策定され、障害のある人の生涯を通じての**個別の支援計画**の構想が明記された。続く平成15年3月には文部科学省より「今後の特別支援教育の在り方(最終報告)」が出され、それを踏まえて平成15年12月には、東京都において、東京都心身障害教育改善検討委員会より「これからの東京都の特別支援教育の在り方について(最終報告)」が報告された。それらの報告の中では、障害者基本計画の**個別の支援計画**を受け、教育分野における**個別の教育支援計画**を策定し、障害のある人の各ライフステージにおける地域生活の充実を目指すとともに、学校卒業後の社会参加を支える支援計画が示された。そして、平成13年度に全国特殊学校長会に委嘱された「教育と労働関係機関等が連携した就業支援の在り方に関する調査研究」にて開発された**個別移行支援計画**は、**個別の教育支援計画**の一部として位置づけられた。本校においてもこうした動向を受け、**個別移行支援計画**の試行を重ね、開校以来取り組んできた**個別指導計画**との関係を模索し、図のような位置づけで取り組んでいる。

図《支援・指導各計画の位置づけ》



本校の個別指導計画は、プロフィール、表1、表2からなる。また高等部における個別移行支援計画は、在学中に作成・活用する個別移行支援計画(1)と、主に卒業後に活用する個別移行支援計画(2)に分かれる。これらの計画は、相互に関連しあいながら、一人一人の児童生徒の指導・支援を行なうことになる。

個別移行支援計画は従来の進路指導をより充実し、生徒本人の「学校から社会へ」、「子どもから大人へ」の移行を支援するための計画である。個別指導計画と一体的に活用されることにより、その意義や効果が明らかになる。この個別移行支援計画では、移行期を高等部入学後から卒業後 3 年間までとし、**在学中の支援計画を個別移行支援計画(1)**、主に**卒業後の支援計画を個別移行支援計画(2)**としている。平成 14 年度より高等部において個別移行支援計画を導入し、平成 15 年度より高等部の全ての生徒に作成している。

○家庭生活や地域生活での支援

在学中より家庭生活や地域生活も視野に入れて支援を行っていくことは、卒業後の生活の充実につながる大切な視点となる。こうした目標や内容は卒業後に活用される個別移行支援計画(2)の作成へとつながる内容になる。平成 15 年 4 月より**支援費制度**が開始され、卒業後の利用に加えて在学中の居宅支援が重要なサービスとしてあげられるようになった。移動介護としてガイドヘルプを利用し、趣味・余暇における社会参加を広げる機会も得られるようになり、在学中より支援費制度を活用することで、卒業後の生活の質をより向上することが期待される。

○まとめー個別指導計画より個別移行支援計画へ

このように、個別指導計画における長期目標・短期目標・授業計画は、やがて個別移行支援計画(2)の作成へとつながる。これは本人が支援を受ける機関や担当者を明らかにし、本人と保護者も一緒に考え、作成することになる。学校も卒業後 3 年間は、担当者との連絡・調整を図り、相談会議を開催できるように役割を担う。そして進路先の生活に慣れてきたところで、それぞれの機関の個別の支援計画へと引き継げるように考えている。個別移行支援計画は、学校内では本人を含めた保護者と教員間の共通理解と授業改善のツールとして、学校外、すなわち地域へは、関係機関や担当者間での共通理解とネットワークの構築、および地域の環境改善を図るツールとして機能することになる。

個別移行支援計画(1)

年 組	生徒氏名	担任
-----	------	----

進路相談の記録			
日付	出席者	形態(場所)	内容

本人の希望
保護者の希望

就労に向けて、本人・保護者の希望をもとに考えられる支援計画	
卒業後の目標：	
1年間の目標：	
具体的な課題	学校での学習場面(手だて・配慮を含む)
評価：	

実習先：	仕事内容：
本人の評価	
保護者の評価	
〈社会生活面〉	
〈作業面〉	
〈対人関係面〉	
〈その他〉	
今後の方針	

資料7-2

個別移行支援計画

本人のプロフィール				記入者 ()		
氏名		カガナ		男・女	生年月日	年 月 日
住所	〒				連絡先	
保護者		住所	〒		連絡先	
出身校		担当者		連絡先		
将来の生活についての希望						
① 事務仕事を行う会社に就職したい。 ② 清潔に暮らしたい。忘れ物をしないようになりたい。 ③ 時間を守り遅刻しないようになりたい。 ④ 友達と遊びに出たい。						
必要と思われる支援内容						
① 東京障害者職業センター多摩支所のジョブコーチを活用し事務仕事の能力を高める。 ② 支援費制度を利用し、身体介護・家事援助でお風呂の介助、着替え洗濯の支援、荷物整理・準備の支援を活用する。 ③ 家事援助の方の支援を受けながらスケジュール表を活用し、時間を意識した生活をする。 ④ 支援費ガイドヘルプを活用し、余暇利用を広げる。						
具体的支援						
家庭生活	進路先の生活	余暇・地域生活	医療・健康	出身学校の役割		
担当者： 連絡先： 担当者： 連絡先： 内容：帰宅後の荷物整理、食事介助、お風呂の身体介護 担当者： 連絡先： 内容：母親の介護ケアマネージャー、母親と共に家族支援全般の相談 担当者：福祉課 連絡先： 内容：福祉の相談 支援費の相談	担当者：東京障害者職業センター 連絡先： 内容：慣れない職場までの通勤支援及び仕事の支援。 周囲の方に必要に応じて本人（障害者）の理解や、関わり方を伝え、本人も職場の方も働きやすい環境を作る。	担当者： 連絡先： 内容：通院や遊びに出かけるときのガイドヘルプ 担当者： 連絡先： 内容：日曜日の余暇活動。 担当者：あきるのクラブ 連絡先： 内容：土曜日 1/月ほどあきる野学園 PTA を中心とした地域活動	担当者：東京小児療育病院・西多摩療育支援センター 連絡先： 内容：半年に一回の定期通院先。病気、障害の進行状況や、生活面での配慮事項の確認。 障害基礎年金の相談 担当者：〇〇歯科医院 連絡先： 内容：歯の治療とケア	担当者：進路 連絡先： 内容：本人・保護者のニーズに応じて関係機関の紹介。本人・保護者と関係機関とをつなぐパイプ役。 計画的または必要に応じて、本人・保護者や関係機関との連絡・相談。 必要に応じ、本人・保護者の同意を得関係機関等へ学校時代の様子の説明。		
備考：						

私は、以下の支援を受けることを希望します。

平成 年 月 日 氏名 (自筆)

※この支援計画は、関係者の合意であり、契約ではありません。